

## 交流施設、キックオフ！

### 地域振興施設「クリーンドーム」落成式

岩手中部クリーンセンター地域振興施設「クリーンドーム」の落成式は2日、和賀町後藤の同施設で行われました。式典には約60人が参加。少年サッカーチームのフットサル試合などが式典を盛り上げました。応募125点の中から愛称として採用された小原香乃さん(和賀西中3年)は「みんなに親しまれるように思いを込めた」と喜びを語りました。同施設はフットサルコートやテニスコートを完備。3月まで地域住民に開放し、4月から一般利用が始まります。

少年サッカーチームがフットサルの試合で落成式を盛り上げました



「福豆ちようだい！」と元気よく捨てる参加者たち

## 福は内！ 鬼も内！

### せつぶんえ 福豆鬼節分会

福豆鬼節分会(岩崎地区自治振興協議会、市教育委員会主催)は3日、鬼の館で行われ約4,000人の来場者でにぎわいました。鬼剣舞発祥の地である岩崎地区は、全国でも珍しく鬼を迎える同イベントを毎年開催しています。鬼剣舞や百姓踊りなど伝統芸能が披露されたほか、福豆まきや餅つき体験などが行われました。ご利益があるという福豆をつかんだ武田弥恵さん(煤孫)は「いい一年にしたい。福豆は記念にとっておきたい」とうれしそうに話していました。

## 移りゆく街並み、懐かしみ

### がまやち 北上自動車学校のあゆみ～蒲谷地の昔と今～

趣味の教室「歴史講座」は5日、黒沢尻北地区交流センターで行われました。同センターが定期的に開催している同講座。今回は「北上自動車学校のあゆみ～蒲谷地の昔と今～」と題し、創業者の故佐藤幸吉氏と昭和37年創業の同校の歩みと、地域の変遷を紹介しました。参加者は時折うなずきつつ、移り変わる地域を懐かしみました。講演した同校の佐藤博文代表取締役は「時代が変わっても安全の重要性は普遍的。今後も地域と共に歩む」と締めくくりました。

懐かしい写真や資料で、同校や地域の歴史を紹介する佐藤代表取締役



大盛況の同フェア。お客さんとの会話も自然と弾みます。

## おらほの旬、味わってけろ

### 北上・西和賀にぎわいフェア

北上・西和賀にぎわいフェア(同フェア実行委員会主催)は15日と16日の2日間にわたり、おでんせプラザぐろーぶ1階の特設会場で行われました。市と西和賀町が協力して開催し、今回で12回目となる同フェア。秋田県湯沢市も参加し、それぞれの名物や特産品などを求め、たくさんの人でにぎわいました。家族と訪れた、旧湯田町出身の新田満さん(70歳・川岸)は「知り合いに会いに来た。納豆汁やゆだ地饅はなつかしの味」と話していました。

## 芸能、身近に感じて ササラ張り替えワークショップ

ササラ張り替えワークショップ(行山流口内鹿踊主催)は1月26日、口内地区交流センターで行われ、踊り手と参加者たち約20人が交流を深めました。ササラは踊り手が背負う装束の一つで、和紙を巻いた長さ約3mにもなる竹のこと。今秋の代替わりを控え、開かれた芸能団体にしたいと企画、開催されました。参加者は鹿踊の由来や、ササラの作り方に興味津々。鈴木海さん・野花ちゃん親子(奥州市江刺)は「作ったものを着て踊ってくれることがうれしい」と話しました。

竹に和紙を巻きつけて、ササラを作る鈴木さんと野花ちゃん



お別れ会で校歌を歌う児童や参加者ら(同校提供)

## 思い出の校舎にありがとう 笠松小学校の校舎お別れ会

耐震強度不足のため移転する笠松小学校の校舎お別れ会は13日、同校で行われました。児童86人や保護者、地域の卒業生など約200人が参加。全校児童の作文「校舎の思い出」を朗読したほか、学校活動の協力者らに感謝の手紙を贈呈するなど、62年間の思い出が詰まった校舎との別れを惜しみました。会を終え、小野寺香世校長は「地域の人たちへの感謝を表すために企画した」と話しました。同校児童らは4月に和賀西小学校に引っ越し、一緒に学校生活を送ります。

## ぼくらの地域の民俗芸能 小学校での民俗芸能公演・体験会

民俗芸能公演・体験会は1月29日、和賀西小学校で行われました。同会は、昨年7月に採択された、市民提案型協働事業の取り組みの一つで、民俗芸能の保存と伝承、後継者育成を目的に実施。同校5・6年生の28人が参加し、八坂神社権現舞と横川目神楽の成り立ちや、踊りを教わりました。

横川目神楽から「鳥舞」の一部を教わった後藤夢芽さん(6年)は「しなやかに踊るように意識した。初めて踊ったけど、またやってみたい」と話しました。

横川目神楽の演者らに教わった踊りを確認し合う児童たち



家族や高橋市長らに祝福される倉吉さん(前列左)

## 百歳、これからもお元気で！ 小山 倉吉さん

鬼柳町にお住まいの小山倉吉さんが百歳を迎え1月31日、敬愛園で祝う会が開かれました。倉吉さんは大正8年1月29日生まれ。昭和42年に故トシノさんと結婚し、子3人、孫8人、ひ孫11人に恵まれています。戦後から土木関係の仕事で75歳まで単身赴任するなどして家庭を支えた倉吉さん。今年ひ孫が成人したことがたまらなくうれしかったそうです。百歳のお誕生会は家族と楽しく過ごし、「(百歳を迎えられたのは)娘のおかげです」と感慨深く話しました。